

平成30年度 学 校 評 価 書

山形県立村山特別支援学校

【評価】 「達成度」 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）
保護者、教員アンケートによる評価＜A～Dの4段階評価の内、AとB合計の割合＞ 達成できた（8割以上） ほぼ達成できた（6～7割） あまり達成できなかった（4～5割） 達成できなかった（3割以下）

(教) 教務部 (総) 総務部 (学) 学習・研修部 (生) 生徒部 (保) 保健体育部 (進) 進路部 (研) 研究部 (相) 相談部 (情) 情報部 (小) 小学部 (中) 中学部 (高) 高等部

学校の教育目標	教育方針		めざす子ども	今年度の重点１ 授業の力量と専門性の向上～一人一人に応じた指導・支援の充実～				
				項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
				①一人一授業研	○授業力向上を目指し、一人一授業研を実施する。指導案を作成、事後研究会を実施し、教員間の話し合いと管理職からの助言を行う。（研）	○公開研究会又は実践研究会で全員が授業研を行い、事後指導では管理職が助言した。（研）	A 保護者2 保護者3 教員3	○授業後に事後研究会を設定することが難しかった。（研） ○お互いの授業を見合う機会が少なかった。 ○公開研究会では、新学習指導要領についての講演会を設定したことで内容は充実できたが、当日の日程が慌ただしかった。（研）
すすんで学び、よりよく生きる人を育てる	子どもたち一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力を明確にします。	卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなどを生涯にわたってよりよく生きることができ、人を育てていきます。	必要知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身でなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。	②ミニ研修会の計画・実施	○本校職員が講師となり、希望制や学部単位の本校職員のみを対象とする研修会を計画・実施する。 ○外部講師を招聘し、各分掌部、各学部の計画で専門性向上のための研修会を企画、実施する。	○職員の関心の高い内容や学部で必要とする研修会を実施した。 ・7月11日：音楽科の実践紹介 ・12月7日：行動面での課題のある子どもの支援 ・7月30日：チャレンジタイムの実践紹介（小） 		

学校の教育目標 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる	教育方針 卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなどを生涯にわたってよりよく生きることができ、人を育てていきます。 必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身でなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。 子どもたち一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力を明確にします。			めざす子ども	③地域、関係機関の資源活用 南山形地域との連携強化 ○地域人材の講師を招聘し、伝統芸能の城山太鼓を学ぶ学習を実施する。 (高) ○南山形地区文化祭に参加する。 (高) ○山形市なかよし作品展や山形県特別支援学校作品展等に出展する。 (学) ○山形霞城セントラルやイオンモール山形南でバザーを行う。 (中) (高) ○福祉関係者を招聘し、福祉制度や進路指導に関する研修会を実施する。 (進)	○10月27日(土)に高等部2年生23名が、城山太鼓の学習を行った。 ○10月27日(土)に高等部3年生10名が南山形地区文化祭に参加し、ステージ発表を行った。また、高等部作業製品の展示を行った。(高) ○計画的に取り組み、各種作品展に出展した。(学) ・山形市なかよし作品展(13点 38名) ・山形県特別支援学校作品展(3点 17名) ○中学部は山形霞城セントラル、高等部はイオンモール山形南でバザーを実施した。(中) (高) ○山形市内の就業・生活支援センターや山形県立保健医療大学、F R臨床研究所から講師を招聘し、研修会を実施した。(相) (進)	A 保護者5 教員8 教員11	○来年度10月26日(土)は高等部のみ授業日にしているので、高等部1年生も何らかの行事への参加を検討する。(高等部) ○作品展の時期が重なるときもあるので、造形的な学習を年間計画に位置づけ、無理なく出展できるようにしていく。(学習・研修部) ○生徒一人一人が充実した活動ができるように、グループ編成や販売活動のやり方を工夫する。(中) (高) ○医療、福祉、労働関係者とのネットワークをさらに強くし、本校に必要な情報を整理し、計画的に講師を招聘し、研修会を行う。(相) (進) (学)
	今年度の重点3				危機管理意識を持続し、安心安全な学校の実現			
	項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目				
	①避難経路、避難訓練の実施による安全の確保	○山形聾学校と連携を図り、避難訓練や研修会を実施したり、危機管理の体制を整える。(保) ○月1回の安全点検を実施する。	○山形聾学校との合同避難訓練を2回実施した。また、避難訓練や不審者対応訓練等を実施した。(保) ○学校安全マニュアルを見直し、災害発生時の下校について、保護者か放課後等デイサービス事業者か事前に分るようにした。(保) ○毎月安全点検日を設定し、校舎内外の安全、防犯バザーの確認等安全な教室環境等の点検を行った。(保) ○塩素系洗剤やシャボネットなどの置き場所を明記した校内図を作成し、管理の徹底を図った。(保)	A 保護者1 教員6 教員7	○山形聾学校との合同避難訓練では、出火場所による避難場所や両校避難完了後の人員確認の方法についてさらに工夫していく。(保) ○災害発生時の下校方法について、保護者、送迎サービス事業所等と確認していく。(保) ○定期的な安全点検を実施する。(保) ○塩素系洗剤などの管理について、管理方法についてさらに検討する。(保)			
	②アレルギー対応、単独通学生安全指導	○アレルギー対応マニュアルを作成し保健指導研修会、生徒指導研修会を実施し、安全指導の充実を図る。 ○熱中症やインフルエンザ予防の具体的な対策を工夫する。(保) ○定期的に通学指導を実施する。 (生) ○ヒヤリハット事例を蓄積する。 (保)	○始業式前に教職員が児童生徒の情報を共有し、安全に学校生活を送れるように、保健指導研修会や児童生徒理解研修会、安全指導説明会を実施した。(保) ○熱中症やインフルエンザ予防について、保健だよりでお知らせするとともに、校内の消毒などインフルエンザ対策を行った。(保) ○単独通学生への通学指導の定期的な実施により、登下校時のマナー指導などに生かすことができた。 (生) (高) ○情報モラルに関する指導を定期的に行った。(生) ○ヒヤリハット事例については、蓄積が十分にできなかった。(保)	A 保護者1 教員7 教員9	○通学路安全マップを作成し、通学時の安全指導に生かす。(生) ○教員間で食物アレルギー調査の流れについて周知し、計画的にアレルギー対応マニュアルを作成する。(保) ○インフルエンザ等の感染症について、感染拡大を防ぐ対策を工夫する。(保) ○単独通学生の会を定期的に実施し、乗車マナー等についての指導を適時行う。(生) ○情報モラルに関する指導を生徒部と協力して行う。(情) ○ヒヤリハット事例の記入方法の工夫と周知に努める。(保)			
	③授業参観、各種行事を通した開かれた学校	○学部ごと授業参観週間を設定する ○「むらとくまつり」を開催し、保護者や地域の方々に学習の様子を紹介する。 ○学校公開等を実施し、本校への理解を深める。 ○保護者へ福祉や進路についての情報を伝える。	○年1回の授業参観週間を設定し実施した。 ○小学部では1年生保護者を対象に給食試食会及び説明会を計画実施した。(小) ○11月2日(金)に「むらとくまつり」を実施し、保護者や地域の方々等約300名の参加があった。 ○9月7日(金)に学校説明会を実施し、福祉関係者等130名の参加があった。 ○6月15日(金)に高等部入学選考に係る学校公開を実施し、山形市、上山市、中山町、山辺町の中学校3年生徒及び保護者、教員が参加した。 ○進路だよりや研修会、学部だより等で情報を伝えた。	A 保護者4 保護者5	○年1回の授業参観週間では少ないとの保護者の声があり、授業参観の設定について検討する。 (教) (各学部) ○「むらとくまつり」は金曜日に実施したが、土曜日開催の方向で検討する。(教) ○学校説明会では、高等部生徒が主体的に活躍できるような方法を検討する。(教) (高) ○保護者への情報提供について検討し、より開かれた学校運営への工夫をする。(各学部)			
	④働き方改革の取組による職員の健康の保持増進	○業務の改善を図りながら、時間を創出する取り組みを進める。 ○月2回の定時退校日を設定する。	○グループウェアを活用したことにより、会議の精選を図り、教材研究や事務処理の時間を確保した。 (教) (情) ○隔週で水曜日と金曜日に定時退校日を設定した。 (教)	B 保護者9 教員12 教員13 教員16	○会議の精選と運営についてさらに工夫改善し、教材研究、事務処理の時間を確保し、児童生徒と向き合える時間を多くする。(教) ○定時退校できるように業務の効率化を図るとともに業務スケジュールを見直す。 (各分掌部) (各学部)			

<学校評議員会より>

- ・不登校や要支援家庭の児童生徒の支援について、福祉関係との連携をしていくことが大切である。
- ・自閉症の児童生徒が増えている。知的障がいを伴う自閉症児への指導について考えていかなければならないのではないかな。
- ・発達障がいの概念が出てからまだ10年程度。発達障がいへの理解はまだ不十分なので理解啓発が大切である。力を発揮できる支援が必要である。
- ・就労に向けて、働ける環境づくりと子どもの適性をどう職業に結び付けられるかが大切である。